

# 長崎県民の健康・スポーツに関する調査研究

## ——とくに成人男子のスポーツ活動

神 文雄・松永 淳一\*

（昭和56年10月31日受理）

## Investigation of Health and Sports Activity in Nagasaki Prefecture

### —— Sports Activity of Male Adults

Fumio JIN and Junichi MATSUNAGA

## I 目 的

社会体育は多くの場合<sup>1,2,3,4)</sup>、組織的な集団活動といわれている。具体的には、急激に変貌する社会にあって、① 生活の基盤を地域にしているが故に、直接、社会変動や文化変容の影響を受けることのない人々が対象となる、② それらの人々（子供・高齢者・主婦など）を中心に、地域集団を育成する、③ その地域集団を通して、個々人を国や地方公共団体の努力によって整備された諸条件<sup>5)</sup>に結合させるための、行政機関によるサービスであると理解することによってスタートしたい。

本論は地域集団の育成に関して、とくに、世帯主（成人男子）に狙いを定めている。彼らは地域住民であり、また、家族の中心である。個人的には、ひま（自由時間）とかね（経済的余裕）を自由に裁量出来る、きわめて有利な立場にありながら、（地域の）集団としての存在価値がそれなりに認められそうにもない、得体の知れない存在になっている。

成人男子の生活構造を規定する第一の要因は、まず、生産活動への参加形態にある。給与所得者が職住分離、という生活環境のなかで、社会の変貌にともなう刺激を人口集中地区において受け止めているのに対して、第一次産業に携わる人々の多くは職住一致、という環境のもとに、おおそ過疎地域にあってその刺激を間接的に、しかも徐々に、わずかずつ受けているにすぎない。若干の例外はあるものの、彼らの生産活動はこのいずれかに属する筈の、いたって単調な形態なのである。

しかし、この生産活動とは背反的な位置にある、消費活動＝余暇（自由時間）活動・スポーツとなると、それはかなり複雑な様相を帯びてくる。具体的には、社会変動や文化変容の影響を直接受けているのか、いないのか、また、受けているとしたら、その度合などによ

---

\* 長崎大学教育学部

って、かなり多様化する筈でもあり、その結果は「地域集団」としての存在価値を判断する一つの材料と思えるのである。

## Ⅱ 研究方法

本論はさきに公刊した「長崎県民の健康・スポーツに関する調査研究」を主題とした多角的研究<sup>6,7,8,9,10,11)</sup>の一環であり、(Ⅲ. 結果)以下で採り上げた資料はすべてこれに依拠している。関係するところの概略を記すと、つぎの如くである。

- A. 対象 長崎県下、4市17町、23小学校の5年生、22中学校の2年生、14高等学校の2年生のそれぞれの保護者(父親)
- B. 時期 昭和53年7月～10月
- C. 方法 質問紙を用い、配布・回収などについては当該各学校に一任した。
- D. 内容 スポーツに関するつぎの8項目
  - ① 在学中の経験
  - ② 好き・嫌い(好意度)
  - ③ 最近の活動(実施度)
  - ④ 将来への意欲
  - ⑤ 余暇(自由時間)活動
  - ⑥ 余暇(自由時間)利用の意欲
  - ⑦ 大会や行事への参加
  - ⑧ 地域のスポーツについて(意見)
- E. 回収・集計 合計・2,781票、うち無効29で、有効票は2,752票(男子－1,421、女子－1,331)

## Ⅲ 集計の結果

対象、項目別、属性別に分けて概観した。

### A 対 象

まず、特性を明らかにするため、属性(地域、年齢、学歴、職業、収入)からその動向を捉えてみた。(表1)

#### 1 属性からみた動向

##### 1) 地 域

農漁村が60%をこえ断然トップである。地方都市および都市が10%台でこれにつづく。残りの2地域はきわめて少なく、1桁にすぎない。このことは一部特定地域(農漁村)への片寄りがあることを意味しよう。

##### 2) 年 齢

40歳代が70%に近い数字で中心となっている。残りを30歳代と50歳代で折半しているが、これは対象となったPTAの、いわゆるPの年齢構造は「不惑」にあると改めて認識しておきたい。

##### 3) 学 歴

義務教育の段階が多いのではあるが、50%には達しない。次いでは高校段階で40%台になる。高等教育の段階は10%をこえているものの、最近の進学率からすると、いたって低く半分以下、現状とはかなりかけ離れている。

#### 4) 職 業

一番多いのは農漁業で30%に達している。技能・作業職がこれにつづいて20%を若干上回り、双方合せると50%を超えてしまう。このあとを事務、専門管理、小企業主がそれぞれ10%台で追っているが、サービス業は思いのほか少なく、全国あるいは県内の一般的傾向とは、これまた、かけ離れている。

#### 5) 収 入

300万円未満が過半数を占めている。400万円までとしても75%をこえてしまうなど、比較的低額部分に集中している。400万円以上は約25%、500万円以上となると10%をわずかに上回る程度にしかない。

表1 成人男子の個人的属性

(%) ( )はN

地 域 (1,421)	1. 都 市	10.6	職 業 (1,313)	1. 農 漁 業	30.8
	2. 地方都市	13.7		2. 技能・作業職	22.2
	3. 都市周辺	8.2		3. サービス業	4.3
	4. 農・漁村	62.3		4. 事 務	16.0
	5. そ の 他	5.2		5. 小企業主	11.5
年 齢 (1,383)	1. 30 歳 代	15.8	収 入 (1,195)	6. 専門管理	13.5
	2. 40 歳 代	69.2		1. 200万円未満	26.0
	3. 50 歳 代	15.0		2. 200万円～300万円未満	26.7
学 歴 (1,267)	1. 義務教育	45.9		3. 300万円～400万円未満	22.9
	2. 高 校	41.0		4. 400万円～500万円未満	12.9
	3. 高等教育	13.1		5. 500万円以上	11.5

\*職業には他に、その他が1.7(%)ある。

## 2 属性間の関連

各属性の相互の間にみられる関連について検討 ( $\chi^2$  検定による処理) した結果、つぎの3点にまとめることができた。(表2)

1) 職業が絡み合う組合せは4組とも「有意」であった。

2) 地域、学歴、収入のそれぞれによる3組の組合せもすべて「有意」であった。

3) 年齢に対する地域、学歴、収入の場合には3組とも「有意」ではなかった。

以上のことからすると、現状では「職業」の位置する要素はかなり大きい「年齢」による影響は流動的で、とくに意識する必要はない程度にある、と判断される。

表2 属性間の関連

属性	地域	年齢	学歴	職業	収入
地域		一	**	**	**
年齢			一	**	—
学歴				**	**
職業					**
収入					

\*\* P<0.01

## B 項目別概要

とくに、直接スポーツにかかわりの深い8項目の概要で、つぎのとおりである。(図2、図3)

### 1 在学中の経験 (過去)

ほぼ5人に1人が「非常に」と自負するほどの、クラブレベルでの経験がある。このレベ

ルを含めても、経験が「ある」というのは過半数をわずかに上回る程度であり、決して多いとは思えない。これよりはスポーツが、かつての時代では男性専用であったということで、敢えて強調するのだが、その男性自体においてすら「あまり（経験を）していない」という数字、45%を特に意識せずにはおれないのである。この数字については、さらにそれぞれの時代的背景を探ることも必要なのであろう。

## 2 好意度

いかにも低調な経験（過去）に比べてスポーツに対する意識（現在）が、数字の上にしるかなり上向きになっているのは当然のことと思える。70%近くが「好き」と意思表示をするのに対して、明らかに「嫌い」として拒絶反応で答えるのはきわめて少なく、わずかに4%程度にしかならない。むしろ、どちらへとも態度を決しかねている数字、30%近くが気懸りであり、課題追求にあたっての必要な存在かと思われる。また、「好き」というなかでの4人のうち3人までが、自分ですること（が）「好き」といつている。

## 3 最近の活動（現在）

まず、指摘しなければならないのは、ほぼ半数近くがこの1年の間にスポーツを「出来なかった」「したいと思わなかった」とことである。それにしてもとにかく、スポーツを「した」のがわずかに3人のうちの1人の割合でしかないのであるし「したかったが出来なかった」のを合わせても、ようやく過半数をこえる程度にしかないのであれば、その低調には、うかがいの知れない何ものかを感じるのである。

さて、この3人に1人の割合でしかない人々を対象として、活動の内容を追ってみることにする。まずはじめは、「なにをしたか（種目）」である。ご存知のとおり「ソフトボール」<sup>12)</sup>が断然トップであって、他を寄せつけない。これにつづくのが、同じ（プレイの）類型に属する「キャッチボール」であり、この2つまでですべてが納まってしまう。「散歩」や「バレーボール」がそのあとわずかながらもあげられるだけである。

場所は「学校」と「庭や周辺」が多く、そのあとを「公共施設」「道路や空地」がにつづくのだが、冒頭にかかげたようにあくまでも「場所」であって「施設」というイメージは浮かんでこない。

だれとするか、というと「地区や部落の一員として」「職場の人」「個人的に」「家族と一緒に」の4点にほぼ平均して集中し、これといった特色はみられない。

なんのためにするのか、については、40%に近い「健康のため」をトップに「楽しみや気晴らし」と「体力を養う」がビッグ3で、合わせると80%に達してしまう。反対にしない理由は、「仕事で疲れて」「暇がない」がつづくが、この2つで60%をこえ、3番目になる「施設がない」など残りの理由はすべて1桁台の比率にしかならない。

また、17%にあたる人々が公式にスポーツの団体やクラブに加入しているわけであるが、「スポーツを通して組織化、されている。このこと自体に関心が向けられよう。

## 4 将来への意欲

ここでの数字は願望をこめてのものなので、積極性が加わるのは当然のことである。80%近くが意欲を示しているのだが、この数字はスポーツを「あまり経験しなかった」なかの約25%、「好き」といわなかったなかの10%前後、「したいと思わなかった」なかの約30%を含んでいるところに、かすかながらも展望が開けるものとみたい。すなわち、将来に向けての潜在的「スポーツ人口」<sup>13)</sup>とみてよいであろう。

内容は「ソフトボール」が2桁の数字である以外はいずれも1桁であり「ハイキング等、

「散歩、トレーニング、ゴルフ」の順で多彩をきわめるが、屋外活動的領域を中心とするプレイ<sup>14)</sup>に終始している。

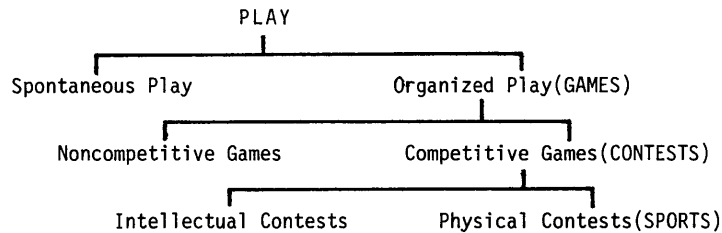


図1 PLAY, GAMES, CONTESTS, SPORTS

必要な条件としては「時間、をあげるのが圧倒的に多い。その約半数で「行事、場所、がつづき、そのあとに「仕事や通勤、があげられている。

相手は「家族や仲間、をあげるケースが多く、「クラブに入って、とか「行事への参加、はあまり望まれていない。このように「スポーツは私的な行動規準、として捉えられているとみてもよいであろう。

## 5 余暇（自由）時間の活動

平日では「テレビ、ラジオ、の比率が断然高く、その半数以下で「新聞・雑誌、そして「ごろ寝、が10%台でつづいている。

休日でも「テレビ・ラジオ、のトップは変わらない。しかし比率ではかなり下降している。また「新聞・雑誌、にいたっては、平日の半分近くにまで落ち込むなど、視聴覚関係を中心に「平日と休日、との間にはかなりの隔たりがみられている。

また「趣味活動、が上位に進出してくる反面、余暇活動のなかで「スポーツ、をあげるのは甚だ少ない。現状でも、依然として、身体活動は敬遠されているとみなければなるまい。

一方、この基本的条件ともなる余暇（自由）時間については、おおよそ3時間以内が90%を占めている。

## 6 余暇（自由）時間の利用意欲

意欲を燃やしているのは約半数だけなのである。それでも明らかに否定する数に比べれば2倍近くになっている。そのなかでみるかぎりの意欲なのだが、一応は旺盛とみたいのである。この他に「わからない、という中間的態度を示す数字がある。この20%をこえる数字が曖昧なうちに残されているのだが、前記 4. 「スポーツへの意欲、では、これに相当する意味の数字が積極的態度で表われているところに「スポーツ、と「余暇活動、とを巡っての課題が生ずるのであろう。

具体的には「旅行、がトップである。そのあとを「休養、「趣味活動、「家族と団らん「スポーツ、など、かなり変化に富んでつづいている。

30%には達しないのだが、利用意欲の乏しさについても無視出来ない。しかし、その数が恐らく、前記5. 「余暇時間の静的活動、のなかの、さらにそのとりとめのない部分＝ラジオ・テレビ、新聞・雑誌など＝とほぼ合致することから、調査技術上の問題と関連していることも考えられよう。

## 7 大会や行事への参加

地域で企画した公的（市町村当局や教育委員会そして体育協会までを含めた）性格をもつ

ような集会＝大会や行事＝としても認識されており、地域住民にとっては強制的とはいえないまでも、かなり自主性に乏しい参加形態になる、と理解しておきたい。このような背景からすれば、参加の比率が比較的高くなるのは当然のことといえよう。それでも過半数には今一息の程度にしかならない。

さて、この参加率に疑問がないわけでもない。それは私的傾向としても捉えられる。前記の「最近のスポーツ活動、との比率のかね合いである。10%以上のひらきがあることは回答者が明らかに、それぞれ二つの基準をもって対処したものと理解しなければならないのであろう。その結果から「大会や行事に参加、した場合でも、直接スポーツ活動にたずさわらなかった」というケースを想定することが出来るわけである。

## 8 地域のスポーツについて（意見）

スポーツを盛んにするためには「住民への普及を図ること」が断然トップにあげられている。また「わからない」とするのを除いた他の意見は、合わせても10%に達しないほどで甚だ無視されている。

スポーツ活動に必要なのは、まず「場所・施設」であり、生活での「ゆとり」を示す「ひま（時間）」がこれにつづいている。「指導者」や「意識の向上」もそれぞれ10%をこえ、この後を追っている。なかでも「指導者」それ自身についての必要性は高く、指導内容は「技術の指導」を訴えている。

すすんで「学校施設」の積極的開放を主張する気配は感じられない。反対という訳ではないが、「別の施設をつくるべきだ、などの「学校施設」の開放についての消極的態度が目立っている。これは55年度以降にみられる国レベルでの施策<sup>15)</sup>が甚だ後退しているなかで、その施策に真向から対立する意見となっている。

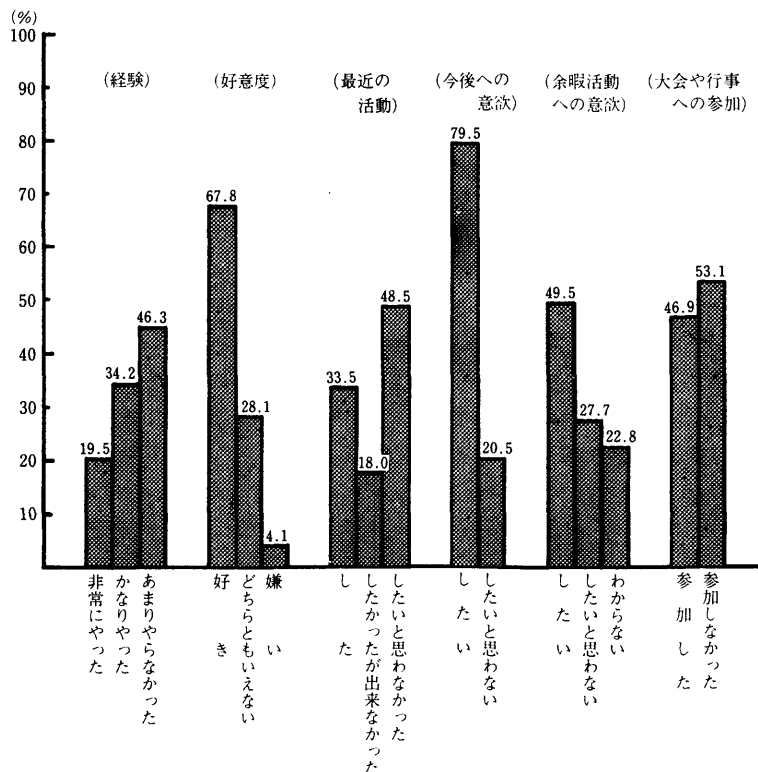


図2 項目別比率 (I)

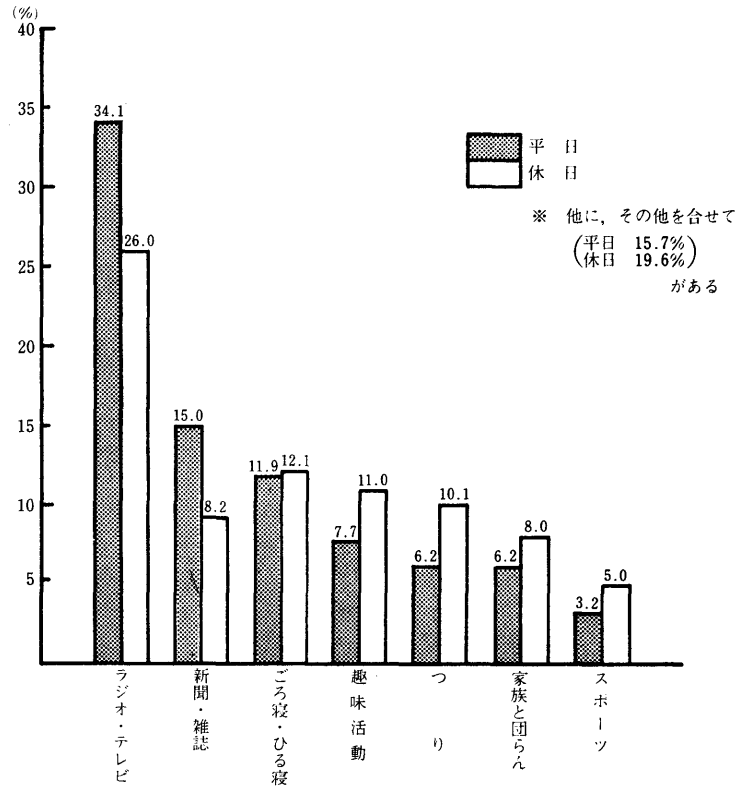


図3 項目別比率 (Ⅱ)

### C 属性別概要

属性を軸に、各タイプ別にみた概要は、つぎのとおりである。

#### 1 地 域

##### 1) 都市型

ここに描き出されている典型は、スポーツが「好き」であることは勿論のこと、余暇（自由）時間の利用意欲もまた充分なるものである。それにも拘わらず、在学中にスポーツの経験があるのは約半数にしかならずあまり恵まれているとはいえない。さらに過去の経験にも及ばない現在の活動、とくに公的ともみられる「大会や行事への参加」は明らかに消極的なものとみられるのである。

##### 2) 地方都市

在学中のスポーツ経験の比率が高いこと、そして余暇（自由）時間の利用意欲が減少していること、この2点を除いてはほぼ都市型に準じている。他の項目についてみても、凸凹がわずかながらも縮まり、まとまっているのが特色である。

##### 3) 都市周辺地域

前記、地方都市に同じく「スポーツの経験」の比率が高いほか、この地域だけが「大会や行事への参加」について50%をこえているのが特色である。都市や地方都市と相異した点といえば、スポーツをそれほどにまで好んではないこと、そして余暇（自由）時間の利用意

欲について消極的なことである。

#### 4) 農漁村地域

スポーツに関してはおおよそ低調な地域である。そのなかで例外は、大会や行事への参加、率が案外高いことで、この地域にみられる著しい特色といえよう。一般に、受け身のタイプの活動が中心で、自発性に欠け、余暇とかスポーツに関してはアレルギー的症狀を呈している。

#### 5) その他の地域

農漁村地域にかなり類似している一方、大会や行事への参加、率が低いこと、それなのにスポーツを比較的好んでいるなど、都市、に近いタイプが交錯している。何となく奇妙なとり合わせにある特殊な地域となる。

### 2 年 齢

#### 1) 30歳代

他の年代に比べた場合、比率の上ではすべての項目にわたって明らかに優位な立場にある。そのなかでは、大会や行事への参加、や最近の活動、など、いうなれば活動の現状でとくに著しくみえている。それほど比率の上で優位にあるとはいいいながらも、実数からすればそれぞれ60%台、あるいは50%に満たない程度なのである。この2項目以外についてもそれぞれ他の年代の数字をはるかに凌駕している。

#### 2) 40歳代

資料による限りではほとんど平均的な位置づけにある、いたって平凡な、いわゆる「不感」の年代なのであろう。30歳代と50歳代のまさに中間にあって何等の特性を見出しえないことが特色なのであろう。このなかでいってあげるとすれば、約3人に1人の割合にしかならない活動の現況に乏しさが感ぜられる。

#### 3) 50歳代

ことスポーツに関しては、とくに活動面で大巾に後退している。せめてもの救いは、それ程強調するほどではないにしても、スポーツや余暇（自由）時間の利用意欲、について、一応は現実を上回る期待値を示していることである。

### 3 学 歴

#### 1) 義務教育段階

スポーツにかかわる態度は全般的に消極的である。とくに「最近の活動、で著しい。余暇（自由）時間の利用意欲、の欠如も、ほぼこれに準じているとみてよいであろう。しかし「大会や行事への参加、については、他の2類型と比較してもそれほどの落差はみられない。

#### 2) 高等学校段階

絶対数からいってスポーツ活動の有力な主体者としての地位はゆるがない。つぎに出る高等教育の段階と比べたとき「在学中の経験、以外は数値の上でかなりの低落傾向を示しているものの、それぞれ平均値を上回る程度でまとまっている。

#### 3) 高等教育段階

全項目にわたって記録されている高い数値からみて「スポーツ、はこの類型に属する人々によって独占されているようにみえる。なかでも「スポーツへの意欲、は質量とも格別のものがある。このほかでは「余暇（自由）時間、の利用についてもかなり意欲的である。



## 4 職 業

### 1) 農林漁業

きわめて消極的な態度を示している。そのなかで平均的な数値にあるのが「大会や行事への参加」である。反対に如何ともし難いほど他と離れて低調なのが、自主的とも判断される「最近のスポーツ活動」である。これは現実の活動の比率が、公的活動か私的活動の両極端に位置していることを意味しており、なんとではなく地域独特の古典的社会関係がうかがえてくるようではない。

### 2) 技能・作業職

農林漁業従事者にみられる消極的な態度のなかから、とくに私的活動ともみられる「最近のスポーツ活動」そして「今後のスポーツに対する意欲」の比率が、ある程度ではあるが上昇している。このことに特色がみられる外は、総じて平均値に届かず、ごくわずかではあるが比率を上げた程度にすぎない。

### 3) サービス業

スポーツが「好き」であるのは勿論のこと、過去、現在ともども他に比べてかなり積極的な姿勢で対処しているし、また、今後への夢も描いている。もし、欠けている項目を挙げるとすれば、順位からだけのことながら「大会や行事への参加」と「最近の活動」を指摘する以外はなさそうである。それにしても他の種類の比率をはるかに上回りながらも、それぞれの項目の比率が高いからに他ならない。ただ、それだけの理由である。

### 4) 事 務

おおそ、積極的な傾向にあるなかで、「大会や行事への参加」と「最近のスポーツ活動」など現実の活動の比率が高くなり、サービス業を凌いでいる。この2項目を除いては、心もち比率を下けている項目、また、底辺の比率が上げられている項目もあり、非常にまとまりをみせている。

### 5) 小企業主

農林漁業従事者、技能・作業職につづいて、比較的消極的な態度をみせているようにみえる。そのなかできわめて異色とみられる傾向がある。それは受け身になることへの抵抗とも理解出来るし、また、日曜・祝祭日とも関連するのであろうが「大会や行事への参加」が他に比べて一段と低いことである。

### 6) 専門管理

きわめて積極的な態度を示しており、サービス業と対比しては、意識の面で首位を明け渡しているものの、現実の活動面では譲らない。とくに顕著にみえるのは、それが「公的であろうと私的であろうと」比率があまり変わらないこと、また「余暇（自由）時間の利用意欲」が際立って高いことである。

## 5 収 入

### 1) 低収入層

全般に消極的な態度を示しているなかで、とくに著しいのは「余暇（自由）時間の利用意欲」や「スポーツ活動への意欲」が欠如していることである。他では、平均並みとはいかないまでも「大会や行事への参加」に最高の比率を示し、中・高収入層にかなり迫っている。

### 2) 中間収入層

一般に「収入」が増加するのにしたがって、スポーツに対するもろもろの態度はわずかながらも積極性を帯びてくる傾向にある。このなかにあって例外なのが「大会や行事への参加」

率であって、収入の変動によって左右されないでいる。

### 3) 高収入層

ここでの特色は個人的スポーツ活動や意欲が旺盛になるのに対して、大会や行事への参加、の割合が落ち込んでくることである。また、在学中の経験、やスポーツの好意度、の比率が下がってくるのも見逃せない事実である。

## IV 考 察

資料のなかから特に選んだ6項目、と各属性との関連を検討した ( $\chi^2$  検定) 結果、つぎのように分類することができた。(表3)

表3 項目と属性の関連

項目 属性	在 学 中 の 経 験	好 意 度	最 近 の 活 動	将 来 へ の 意 欲	余 暇 (自 由 時 間) へ の 意 欲	大 行 会 事 へ の 参 加
地 域	—	—	**	**	**	—
年 齢	*	**	**	**	*	**
学 歴	**	**	**	**	**	**
職 業	**	**	**	**	**	*
収 入	*	**	**	**	**	—

\*\*  $P < 0.01$

\*  $P < 0.05$

#### A. 定説化している項目

(すべて、有意である)

#### B. 一部に課題が残る項目

(地域だけがナンセンス)

#### C. ある程度課題が残る項目

(地域と収入がナンセンス)

#### A 定説化している項目

すべてにわたって有意であることは、それぞれが一貫した強い、太い線で結ばれていることを意味する。これは、仮説、をたてるとか、実証するとかいう段階をこえ、すでに定説(常識)化していることであって、本論においてはこれを改めて確認したことにはすぎない。(表4)

表4 定説化している事項

属性	一 般 的 傾 向
地 域	都市化が進んでいるほど > 農漁村に対して
年 齢	若年ほど > 高齢者に対して
学 歴	就学年数が長く、高いほど > 義務教育に対して
職 業	専門管理・事務職を中心に > 農・漁、技能・作業に対して
収 入	高額なほど > 低額に対して

さて、具体的には、1、最近のスポーツ活動、2、今後のスポーツ活動への意欲、3、今後の余暇(自由時間)活動への意欲、の3項目がこのタイプに属すわけである。これらの3項目に共通する傾向は明らかであり、もし、何等かの相異を求めるとすれば、それぞれの比率の間にいとも鮮明な「ひらき」が生じていることである。

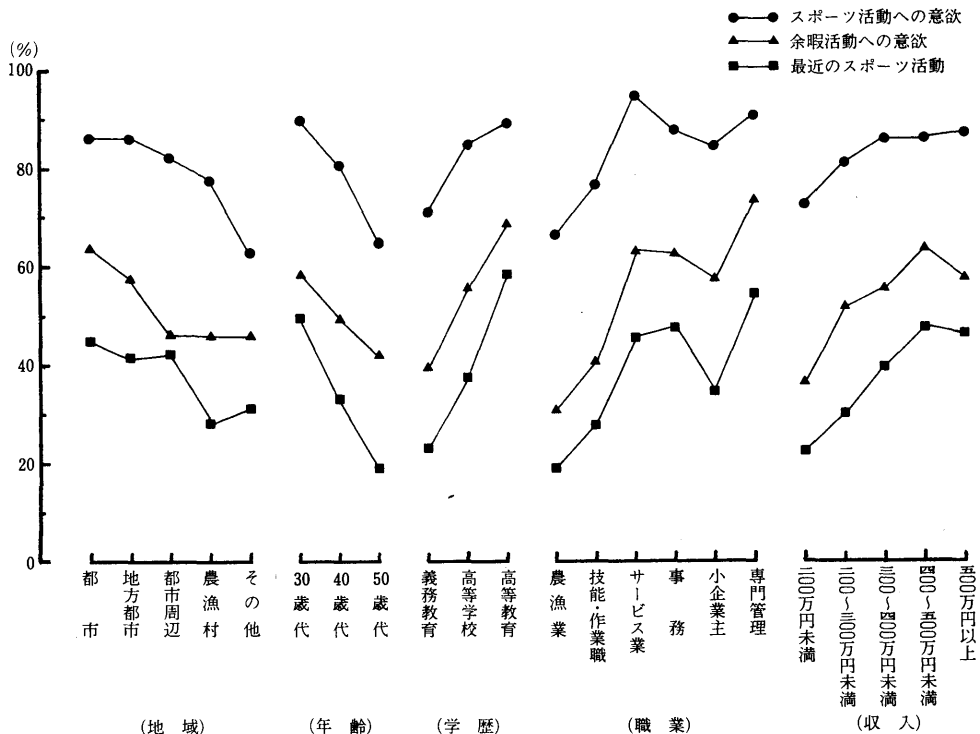


図4 属性別にみた最近のスポーツ活動・スポーツ活動への意欲・余暇活動への意欲

「スポーツ活動への意欲」は、いうなれば淡くかけた期待値なので、著しく上昇し「80%」近くにまで達する。同じ期待値ではあるが、「余暇活動」となると50%程度にしかならないということは「ことば」としての「スポーツ」と「余暇」との間に、何かとニュアンスの相違があるやに感ぜられもする。これに対して現実の「最近のスポーツ活動」の比率の見劣りは著しい。30%をわずかに上回る程度である。(図4)

また、現実の「スポーツ活動」がいかに低調であるのか、さもなければ（そのためから）未来への夢が大きすぎるのか、ということを追求することになれば、その比率が2倍以上、なかには3倍以上の数値を示しているのを確認することによっても明らかになる。

(表5)

このことを、属性のそれぞれについてさらに検討する場合、「活動状況」の最高（学歴で高等教育の段階）と最低（年齢で50歳代）、「今後の余暇意欲」の最高（職業

表5 スポーツの現状に対する今後の活動意欲（率）

地域	1. 都市	1.91	職業	1. 農・漁業	3.49
	2. 地方都市	2.06		2. 技能・作業職	2.76
	3. 都市周辺	1.95		3. サービス業	2.07
	4. 農・漁村	2.73		4. 事務	1.84
	5. その他	2.00		5. 小企業主	2.41
年齢	1. 30歳代	1.80	収入	6. 専門管理	1.66
	2. 40歳代	2.44		1. 200万円未満	3.18
	3. 50歳代	3.39		2. 200万円～300万円未満	2.68
学歴	1. 義務教育	3.06		3. 300万円～400万円未満	2.16
	2. 高校	2.25		4. 400万円～500万円未満	1.79
	3. 高等教育	1.52		5. 500万円以上	1.87

平均＝2.35

表6 スポーツの現状に対する今後の活動意欲の類型

グループ	傾 向	属 性
1	(双方ともかなり高い比率)	学歴=(3)高等教育, 職業=(6)専門管理
2	(双方とも比較的高い比率)	地域=(1)都市, 職業=(4)事務,(3)サービス 年齢=(1)30歳代, 収入(4)(5) 400万円以上
3	(双方とも低い比率)	年齢=(3)50歳代, 職業=(1)農・漁業 学歴=(1)義務教育, 収入=(1) 200万円未満
4	(逸脱しすぎている)	地域=(5)その他の地域

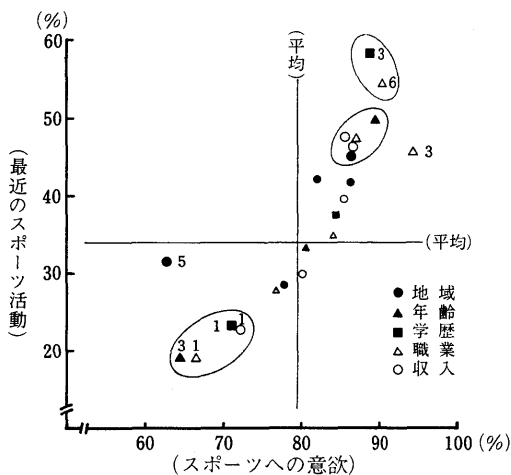


図5 最近のスポーツ活動とスポーツへの意欲

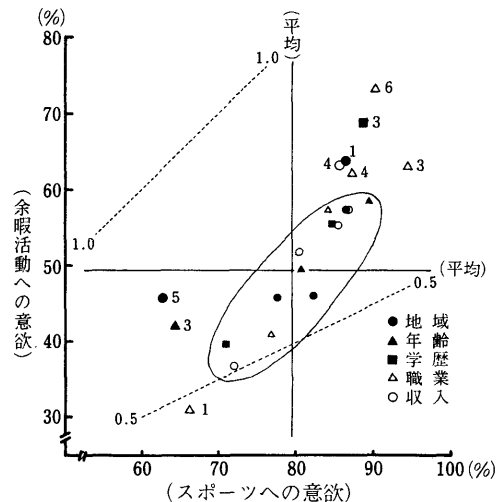


図6 スポーツへの意欲と余暇活動への意欲

で専門管理)と最低(地域のその他)とを結んだ範囲を一応の目安とした結果からもうかがえる筈で、実際には「4グループ」を確認することによって明らかにされる。

(表6)(図5)

さらに考察をすすめれば、スポーツへ、そして余暇活動へと、双方に強い意欲を示しているグループがある。このグループは「学歴」と「職業」に関してであって「年齢」と「収入」は係わりがないように思われる。また、これとは相反する逆の、いうなれば低調なグループを形成するのは「職業」のほか、「地域・年齢・収入」に関する類型が見られる。(図6)

最後に、スポーツがかなり優先

表7 スポーツへの意欲に対する余暇活動への意欲(率)

地 域	1. 都 市	0.74	職 業	1. 農 漁 業	0.47
	2. 地方都市	0.67		2. 技 能 職	0.53
	3. 都市周辺	0.56		3. サービス業	0.67
	4. 農・漁村	0.59		4. 事 務	0.71
	5. そ の 他	0.73		5. 小企業主	0.68
年 齢	1. 30 歳 代	0.65	収 入	6. 専門管理	0.81
	2. 40 歳 代	0.61		1. 200万円未満	0.51
	3. 50 歳 代	0.65		2. 200万円～ 300万円未満	0.65
学 歴	1. 義務教育	0.58		3. 300万円～ 400万円未満	0.65
	2. 高 校	0.66		4. 400万円～ 500万円未満	0.74
	3. 高等教育	0.78		5. 500万円以上	0.66

平均=0.62

されているなかであって、余暇活動への意欲は一步譲って後方にある。スポーツへの意欲を「1.00」としたとき、余暇活動にみられる数字はすべて「少数点以下」で示される。(表7)

## B 一部に課題が残る項目

このタイプに属するのは「在学中の経験」と「好意度」の2項目である。その考察にあたっては属性のうち、「年齢・学歴・職業・収入」などについてはそれぞれ前掲(表4)に準ずる如くであり、とくに異論を差し挟む余地はあるまい。この結果、直接の対象となるのはただ一つ「地域」だけである。

まず、「在学中の経験」からすれば、「地方都市」と「都市周辺」での経験率が高く、「都市」や「その他の地域」が低調で、平均以下となっている。スポーツに「好意」をもつ70%に近いなかでみる地域間の変動は無視しても差支えない程度で、ほぼ10%という狭い範囲のなか収まっている。(図7)

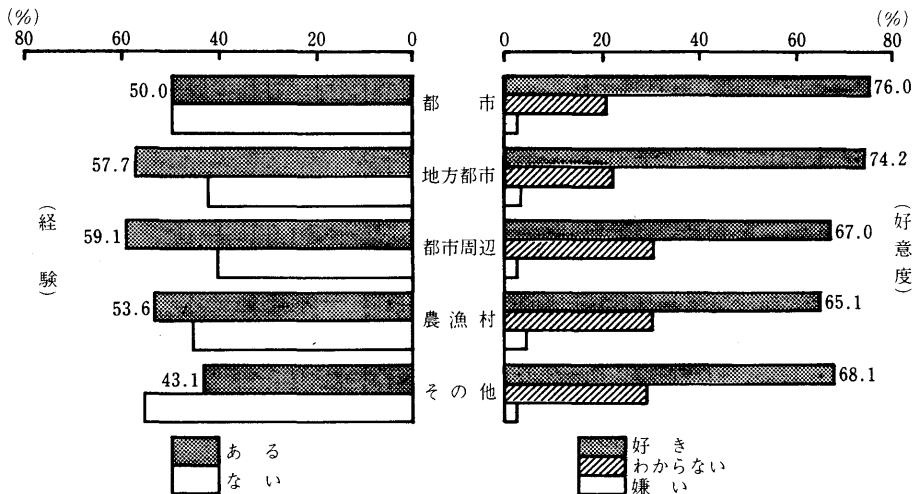


図7 地域別にみた「経験」と「好意度」

それよりは、この「経験」や「好意度」を示す数字から、さらにその時代的背景を探ることにもなれば、それぞれの時代によっても性格づけられるであろう各学校期におけるスポーツ関係の行事、クラブ活動の実態、それに加えて教科(保健体育)としての授業の展開内容や方法<sup>16)</sup>など、かなりの示唆的事項を含むように思われる。

表8 女子教員の推移(比率)

区分	25年	35年	45年	55年
全 国	149,606 人 (49.0)	163,438 人 (45.3)	187,322 人 (50.9)	264,911 人 (56.6)
長崎県	(54.0)	(50.6)	(52.3)	(52.3)

表9 女子教員の年齢区分(比率)

区分	総 数 (人)	年 齢 (%)				
		25歳未満	25歳～35歳 以上 未満	35歳～45歳 以上 未満	45歳～55歳 以上 未満	55歳以上
40年	162,827	9.8	32.1	45.5	11.3	1.3
46年	189,451	15.5	22.8	37.4	22.1	2.2
49年	211,851	15.3	27.4	25.6	29.0	2.7
52年	233,715	15.3	33.2	17.6	30.4	3.5

さて、`地域、にのみ絞って関連させた結果は、`好意度、が比率の上で10～30%程度上回っているなかで、双方共に優位にあるのは`地方都市、である。この程度の都市化の進み具合が、スポーツに際して最適の環境にあるとみておきたい。これに対して`都市周辺、では`好意度、が低いというよりは、`経験＝かつての實踐、が進みすぎていたのでもあろうし、`都市、での経験が低いことは、進学との絡み合いも予想されるところである。`農漁村、については平均的にまとまり、これといった特色は見出せない。(図8)

また、`経験、と`最近の活動、とでみると、経験が低い割に活動が活発である。いわゆる`進捗率、が`都市、では90%をこえ、かなり上昇気味であるのに対して、`農漁村、で、50%をわずかに上回る程度にあることは、何かと検討の余地を残しているようである。

(表10)

### C ある程度課題が残る項目

`地域、と`収入、から考察する場合に、まとまった傾向がつかめず、課題を残しているタイプで、`大会や行事への参加、がこれに該当する。

まず、`地域、である。それほど積極的とはいえないまでも比較的高率なのが、`都市周辺、で、このあとを`農漁村、がつづいている。`都市・地方都市・その他の地域、で参加率が心もち低調であるというのは、その間の差異が10%程度でしかないからであり、仮説をたてるほどの段階にはならない。何とはなしに、都市化の進展の度合が、`大会や行事への参加、に歯止めをかけているような気配を感じるのである。(図9)

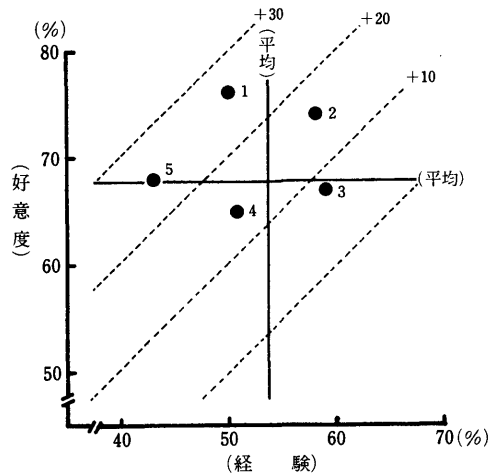


図8 経験と好意度

表10 過去の経験に対する最近の活動(率)

地域	1. 都市	90.2	職業	1. 農漁業	39.3
	2. 地方都市	72.6		2. 技能職	60.1
	3. 都市周辺	71.6		3. サービス業	72.9
	4. 農・漁村	53.2		4. 事務	76.9
	5. その他	73.3		5. 小企業主	63.3
年齢	1. 30歳代	79.9	収入	6. 専門管理	88.3
	2. 40歳代	63.1		1. 200万円未満	47.0
学歴	3. 50歳代	36.3		2. 200万円～300万円未満	57.6
	1. 義務教育	50.7		3. 300万円～400万円未満	67.0
	2. 高校	60.9		4. 400万円～500万円未満	75.2
	3. 高等教育	93.7		5. 500万円以上	78.6

平均=62.4

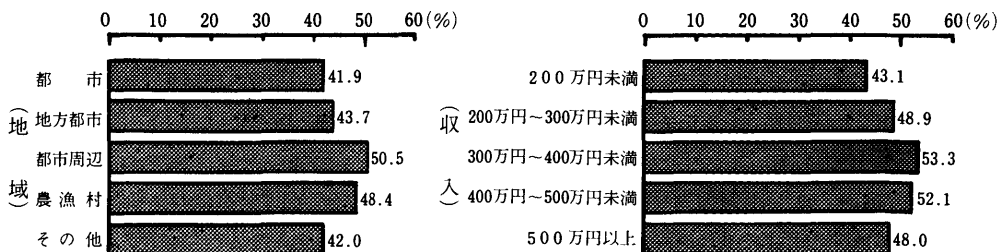


図9 地域別・収入別にみた`大会や行事への参加、

収入、からすると、300万円～500万円、の階層が積極的姿勢を示している。これに対して、500万円以上、の階層と300万円未満、の階層が平均的な位置にあり、とくに、200万円未満、の階層ではきわめて後退していることが明らかになった。(図9)

さて、大会や行事への参加、を公的性格が強いとして捉えたうえで、私的活動と判断される最近のスポーツ活動、と関連させたところで確認したことは、農漁村、地域と低収入層にみられる、公的活動、へ向けての著しい傾斜である。(表11)

公的活動と同時に、私的活動への参加率も高いということになれば、スポーツについてそれなりの認識(意識が向上した)が生じたからのことと受け止められよう。しかし反対に、それが低いとしたら＝低ければ低いほど＝その意味するところは、まさに大会や行事への参加、そのものなのである。

この見解に合致するケースの多くでは大会や行事、は慣行として行われる事例＝定例・儀式化＝が増えている。これは地域住民にとって、社会生活における半強制的な、付き合い型の1日行事(おまつり)、としての存在であり、生活のなかのゆとりある営みの一つとしてのスポーツ、たり得ないことになってしまう。これらの多くは、しばしば農漁村地域、低収入層、などで代表される。

これに対して、私的活動としてのスポーツにのみ積極的態度を示しているのが、地域でいえば、都市・地方都市、収入では高額収入層(400万円以上)、で、都市、の場合は、完全に公的活動の比率を凌駕している。(図10)ほかでは、学歴＝高等教育、職業＝専門管理、もこの範疇に属すとみてよいであろう。このような現実からすれば、選手達が行うスポーツを見ること<sup>17)</sup>、とか(プロスポーツなど)みせるスポーツを見ること<sup>18)</sup>、のようなスポーツに対するかつての概念は、現在、いとも明らかに覆えられてしまっている、このことを裏付け

表11 大会や行事への参加に対する最近の活動(率)

地域	1. 都市	1.08	職業	1. 農漁業	0.44
	2. 地方都市	0.96		2. 技能職 作業	0.61
	3. 都市周辺	0.84		3. サービス業	0.88
	4. 農・漁村	0.59		4. 事務	0.86
	5. その他	0.75		5. 小企業主	0.82
年齢	1. 30歳代	0.79	収入	6. 専門管理	0.97
	2. 40歳代	0.69		1. 200万円未満	0.53
学歴	3. 50歳代	0.70		2. 200万円～ 300万円未満	0.61
	1. 義務教育	0.56		3. 300万円～ 400万円未満	0.74
	2. 高校	0.75		4. 400万円～ 500万円未満	0.92
歴	3. 高等教育	1.02		5. 500万円以上	0.96

平均＝0.71

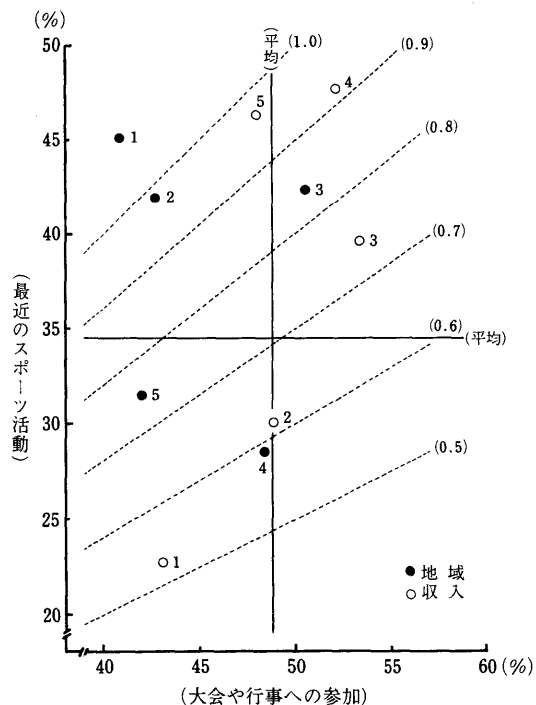


図10 最近のスポーツ活動と大会や行事への参加

る資料ともいえよう。

さて、最後になるが「公」からやらしてもらふスポーツと「自ら＝私」がすすんで行うスポーツとの間の、全く相容れない関係に関心が向けられる。それはすでに指摘した「スポーツと余暇、との関係と、この「公・私」の関係との間の数字から見い出せるのである。観察からは、ごくわずかな例外（学歴＝義務教育、職業＝農漁業、収入＝低収入層と最高収入層など）があるだけである。

## V 要 約

以上の考察からまとめられた内容は、おおよそつぎのごとくである。

- A. 今後への期待値からすると、スポーツ活動は余暇活動をかなり上回っている。
- B. 現実のスポーツ活動は、期待値に比べてかなり見劣りしている。
- C. 個人的な属性としては、「職業」が全項目にわたって、とくに「有意性」を示している。
- D. 「地域」は（過去の）経験と好意度で課題を残すなど、いまのところは流動的要素を多く含んでいる。
- E. 現状では「地方都市」程度の都市化の度合が、スポーツ活動には最適である。
- F. 都市での低い経験（率）は、結果としてスポーツ（最近の活動）への充足率をかなり高めている。
- G. 「大会や行事」へ参加することの特性（公的性格が強い）は、部分的ながらも「地域や収入」に表われている。
- H. 「スポーツと余暇との関係」と「公的・私的性格の関係」はかなり類似しており、スポーツ＝公、余暇＝私、という図式が描かれそうである。

最後になるが、本論中の作図に関しては、田井村明博教官の手をわずらわすこと多大であった。その協力に深甚なる謝意を表わしたい。

## 注

- 1) 文部省：社会体育——考え方、進め方，1960. 教育出版，p. 1.
- 2) 栗本義彦：社会体育，1966. 第一法規，p. 2～5.
- 3) 江橋慎四郎，松島茂善：社会体育，1972. 第一法規，p. 45～51.
- 4) 菅原 禮：現代社会体育論，1977. 不昧堂，p. 30～36.
- 5) 具体的には，施設（の整備），指導者（の養成），集団・組織（の育成），事業（の振興）の4項目で，昭和56年度（概算要求の段階で）はそれぞれ，3,575億円，18億円，29億円，507億円，合計約 4,130億円が予算化されている。
- 6) 神 文雄，山内正毅，田井村明博：長崎県民の健康・スポーツに関する調査研究——とくに主婦のスポーツ活動について，長崎大学教養部紀要（自然科学篇），22-1，1981.
- 7) 田原靖昭，菅原正志：——成人の個人的属性と健康の様相，以下6）に同じ。
- 8) 菅原正志，田原靖昭：——地域別にみた成人の健康の様相，以下6）に同じ。
- 9) 山内正毅，田原靖昭：——児童・生徒の健康の様相，以下6）に同じ。
- 10) 田井村明博，今中国泰：——成人の自覚症状からみた健康の因子分析的検討，以下6）に同じ。
- 11) 今中国泰，田井村明博：——児童・生徒の自覚症状からみた健康の因子分析的検討，以下6）に同じ。
- 12) 社会人における最近の普及ぶりは著しく，長崎市および佐世保市の昭和56年度・早朝ソフトボールの参



加チームはそれぞれ、247, 143, 計390チーム、ナイターソフトボールは340, 179, 計519チームを数えている。

- 13) 竹之下休蔵：地域社会におけるスポーツ実態報告書——人口移動と社会体育——，第1集，1953. 文部省体育局. p. 1によれば，スポーツへの参加の仕方やレベルを，年齢や性や職業，働いている職場の規模の大きさなどに関連させて捉えている。
- 14) Allen GUTTMANN, *From Ritual to Record*, Columbia University Press: New York, 1978. p. 9には，ゲーム，競技，スポーツと関連させて分類している（図1参照）。
- 15) 施設整備費に関しては昭和56年度予算で，公立学校体育施設が23.3%アップ（110億円）したのに対して，公立社会体育施設は6.2%（109億円）にすぎない。
- 16) 関連していると思われるのは，とくに小学校における女子教員の増加とその年齢区分にみる高齢化である（表8，9参照）。
- 17) 木下秀明：スポーツの近代日本史，1970. 杏林書院，p. 116～117.
- 18) 同上，p. 248～249.

## 資 料 I

在学中の経験	N	1,371
	① 非常によくやった	19.5
	② かなりやった	34.2
	③ あまりやらなかった	46.3
好意度	N	1,375
	① す き	67.8
	② すきでもきらいでもない	28.1
	③ きらい	4.1
自分が好きなこと	N	985
	① す き	76.0
	② すきでもきらいでもない	22.0
	③ きらい	2.0
最近(一年間)行ったスポーツ	N	1,363
	① たびたびした(1週間に2~3時間)	9.8
	② ときました(2週間に2~3時間)	23.7
	③ ほとんどしなかった(1年間に1~2回ぐらい)	39.8
	④ したいと思ったができなかった	18.0
	⑤ したいと思わなかった	8.7
スポーツを行わない理由	N	1,627
	① からだが弱く体力がない	5.0
	② すきでない	8.0
	③ 近くに施設がない	9.0
	④ 費用がかかりすぎる	0.0
	⑤ まわりの人の理解がない	1.0
	⑥ 運動がへた	6.0
	⑦ 仲間がいない	6.0
	⑧ 指導者がいない	1.0
	⑨ ひまがない	36.0
	⑩ 仕事でつかれてやる気がしない	27.0
最近(一年間に)行った種目	N	2,370
	① ソフトボール	24.0
	② キャッチボール	11.0
	③ 散 歩	9.0
	④ バレーボール	7.0
	⑤ ランニング	6.0
	⑥ 体 操(ラジオ体操を含む)	6.0
	⑦ 野 球	5.0
	⑧ ゴルフ	4.0
	⑨ 体力づくり, トレーニング	4.0
	⑩ その他	24.0
行った場所	N	2,165
	① 家の庭や周辺	22.0
	② 道路や空地	13.0

行った場所	③ 学 校	24.0
	④ 学校外の公共施設（公園，グラウンド，トレーニングセンターなど）	16.0
	⑤ 公民館	1.0
	⑥ 寺，神社の境内	1.0
	⑦ 勤務先の施設	8.0
	⑧ ボーリング場，ゴルフ場，美容体操教室などの商業施設	5.0
	⑨ スキー場，海，川，山などの野外又は野外施設	9.0
行った時間	N	616
	① 20分以下	28.0
	② 30分ぐらい	30.0
	③ 1～2時間	33.0
	④ 2時間以上	9.0
行った時間帯	N	568
	① 平日の早朝（出勤前）	14.0
	② 平日の昼休み	9.0
	③ 平日の勤務時間後	15.0
	④ 平日の午前中	2.0
	⑤ 平日の午後	13.0
	⑥ 平日の夜間	9.0
	⑦ 休日の早朝	5.0
	⑧ 休日の午前中	13.0
	⑨ 休日の午後	15.0
	⑩ 土曜日の午前	1.0
	⑪ 土曜日の午後	4.0
行った相手	N	2,330
	① 地区や部落一員として	21.0
	② 青年団や婦人会の一員として	3.0
	③ 職場で	20.0
	④ スポーツクラブで	9.0
	⑤ 家族といっしょに	16.0
	⑥ PTAの一員として	6.0
	⑦ 近所の人と	7.0
	⑧ 個人的に	19.0
行った理由	N	1,346
	① 楽しみや気晴らしのため	25.0
	② 精神力を養うため	6.0
	③ 体力を養うため	15.0
	④ 健康のため	38.0
	⑤ 美容のため	0.0
	⑥ 仲間ができるから	6.0
	⑦ 勝利や記録を得るため	1.0
	⑧ 肥満防止	3.0
	⑨ 老化防止	6.0

団体や クラブに	N	1,242
	① 入っている	17.0
	② 入っていない	83.0
今後への 意欲	N	1,297
	① 非常にしたいと思っている	13.1
	② できればしたい	66.4
	③ したいとは思わない	20.5
行いたい 種目	N	
	① ソフトボール	13.0
	② ハイキング, オリエンテーリング, 登山	9.0
	③ 体力づくり, トレーニング	8.0
	④ 散歩	8.0
	⑤ ゴルフ	6.0
	⑥ ランニング	6.0
	⑦ 野 球	5.0
	⑧ バレーボール	5.0
	⑨ テニス	5.0
	⑩ 体操 (ラジオ体操を含む)	5.0
	⑪ 卓 球 (ピンポン)	5.0
	⑫ キャッチボール	5.0
	⑬ その他	20.0
必要な 条件	N	2,210
	① もっと経済的に楽になればよい	9.0
	② もっと時間的なひまがほしい	38.0
	③ もっと仕事や通勤が楽になればよい	11.0
	④ もっとまわりの人の理解がほしい	2.0
	⑤ もっと使える場所がほしい	14.0
	⑥ 手軽に参加できる行事があればよい	17.0
	⑦ 指導者がほしい	2.0
	⑧ 手軽に入れるクラブがあればよい	7.0
行いたい 方法	N	4,144
	① ひとりでやりたい	13.0
	② 家族といっしょに	32.0
	③ 仲間といっしょに	34.0
	④ クラブなどに入ってやりたい	11.0
	⑤ 行事 (スポーツ教室) に参加してやりたい	10.0
余暇 (自由) 時間	N	1,367
	① 1時間以下	20.0
	② 1～2時間	27.0
	③ 2～3時間	28.0
	④ 3～4時間	14.0
	⑤ 4～5時間	7.0
	⑥ 5～6時間	2.0

	⑦ 6時間以上	3.0
余暇（自由） 時間に行いたいこと	N	2,668
	① テレビ、ラジオ	34.1
	② 新聞、雑誌	15.0
	③ ご、しょうぎ、マージャンなど	3.0
	④ ごろ寝、昼寝などの休息	11.9
	⑤ 庭いじり、けいこごとなどの趣味活動	7.7
	⑥ 読書（書籍）	3.0
	⑦ テニス、ゴルフ、ランニング、体操などのスポーツ	3.2
	⑧ 団体の活動や公衆会に参加する	1.0
	⑨ つ り	6.2
	⑩ 家族や子供とだんらん	6.2
	⑪ なんとなくぶらぶらすごす	5.0
	⑫ パチンコ	1.0
	⑬ 雑 談	2.0
休日に行いたいこと	N	2,359
	① テレビ、ラジオ	26.0
	② 新聞、雑誌	8.2
	③ ご、しょうぎ、マージャンなど	3.0
	④ 昼寝などの休息	12.1
	⑤ 庭いじり、けいこごとなどの趣味活動	11.0
	⑥ 読書（書籍）	3.0
	⑦ スポーツをする	5.0
	⑧ 団体の活動や公衆会に参加する	2.0
	⑨ つ り	10.1
	⑩ 家族や子どもとだんらん	8.0
	⑪ 映画、観劇、音楽会など	0.0
	⑫ パチンコ	1.0
	⑬ 買い物、訪問	8.0
	⑭ なんとなくぶらぶらすごす	6.0
余暇意欲	N	1,344
	① あ る	49.5
	② な い	27.7
	③ わからない	22.8
今後に行いたいこと	N	3,338
	① ハイキングやキャンプなどの野外活動	7.0
	② 旅 行	16.0
	③ ご、しょうぎ、マージャンなど	4.0
	④ 休 養	12.0
	⑤ 庭いじり、手芸などの趣味活動	12.0
	⑥ 読 書（書籍）	7.0
	⑦ 野球、テニス、バレーボールなどのスポーツ	11.0
	⑧ 団体の活動や公衆会に参加する	2.0

今後に行いたいこと	⑨ つ り	11.0
	⑩ 家族や子どもとだんらん	11.0
	⑪ 映画, 観劇, 音楽会など	3.0
	⑫ パチンコ	1.0
	⑬ 買い物, 訪問	3.0
行大会・への参加	N	1,280
	① 参加した	46.9
	② 参加しなかった	53.1
参加した理由	N	1,163
	① 運動をすることが好きだから	27.0
	② その運動が好きだから	19.0
	③ 順番がまわってきたから	6.0
	④ くじびきで当たったから	2.0
	⑤ 毎年出場しているから	19.0
	⑥ 役員や係の人にたのまれたから	22.0
	⑦ 出ない人にうるさく言われるから	2.0
	⑧ 家族にすすめられたから	2.0
不参加の理由	N	1,037
	① 運動をすることがきらいだから	7.0
	② 運動がへただから	13.0
	③ 参加する暇がなかった	44.0
	④ 体が弱かったから	6.0
	⑤ 仕事で疲れてやる気がしなかった	29.0
	⑥ 家族が反対したから	1.0
スポーツをするための意見	N	1,235
	① 広く一般住民の運動やスポーツの普及をはかるべきだ	74.0
	② 市町村, ひいては県全体のスポーツの記録の向上に重点をおくべきだ	3.0
	③ 運動やスポーツの普及と記録の向上の両方をはかるべきだ	6.0
	④ わからない	17.0
スポーツをさかんにするための条件	N	2,446
	① ひまな時間	14.0
	② 場所や施設	29.0
	③ 生活のゆとり	14.0
	④ 仲間やグループ	8.0
	⑤ 用 具	2.0
	⑥ 大会や行事	7.0
	⑦ 指導者や世話をする人	11.0
	⑧ スポーツに対する意識の向上	11.0
	⑨ いつ, どこで, 何があるかのPRが必要	5.0
指導者	N	1,240
	① ほしい	62.0
	② ほしいと思わない	38.0

指導の内容	N	802
	① 技術の指導をしてくれる人	50.0
	② 施設の世話をしてくれる人	19.0
	③ グループの面倒をみてくれる人	19.0
	④ 試合やゲームの審判やコーチをしてくれる人	12.0
学校施設の開放	N	1,216
	① 積極的に開放すべきだ	23.0
	② 学校開放よりも児童・生徒にもっと使わせるべきだ	16.0
	③ 夜間・日曜日のみ開放した方がよい	12.0
	④ 管理面など問題が多いので開放しない方がよい	3.0
	⑤ 学校開放よりも地域住民のためにスポーツ施設をつくるべきだ	46.0

## 資 料 Ⅱ

項目	属性 カテゴリー	合 計	年 齢			学 歴			第 一 類 型
			30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	義務 教育 の 学 校	旧 新 制 高 等 学 校	旧 短 大 ・ 高 専 学 校	
在学中の経験	N	1,371	212	922	197	557	502	162	146
	① ある	53.7	62.3	52.5	52.3	45.8	61.2	62.3	50.0
	② あまりやらなかった	46.3	37.7	47.5	47.7	54.2	38.8	37.7	50.0
好意度	N	1,375	212	925	199	557	505	168	146
	① すき	67.8	75.0	69.7	54.3	60.0	73.2	79.1	76.1
	② すきでもきらいでもない	28.1	21.2	26.7	38.7	34.6	24.0	18.4	21.2
	③ きらい	4.1	3.8	3.6	7.0	5.4	2.8	2.5	2.7
最近の活動	N	1,363	211	921	195	555	500	161	144
	① たびたび、ときどきした	33.5	49.7	33.1	19.0	23.2	37.6	58.4	45.1
	② したいと思ったが出来なかった	18.0	9.5	18.3	23.1	21.3	15.6	12.4	13.2
	③ しなかった、したいと思わなかった	48.5	40.8	48.6	57.9	55.5	46.8	29.2	41.7
今後の意欲	N	1,297	209	878	180	525	476	160	140
	① 非常にしたい、出来ればしたい	79.5	89.5	80.6	64.4	71.0	84.7	88.8	86.4
	② したいとは思わない	20.5	10.5	19.4	35.6	29.0	15.3	11.2	13.6
余暇意欲	N	1,344	207	907	191	550	483	161	144
	① ある	49.5	58.4	49.5	41.8	39.6	55.5	68.9	63.9
	② な い	27.7	26.1	27.2	32.5	31.1	26.1	22.4	17.4
	③ わからない	22.8	15.5	23.3	25.7	29.3	18.4	8.7	18.8
大会行事への参加	N	1,280	201	867	178	509	473	158	136
	① 参加した	46.9	62.7	48.2	27.0	41.8	50.1	57.0	41.9
	② 参加しなかった	53.1	37.3	51.8	73.0	58.2	49.9	43.0	58.1



地域類型				収入(円)					職業						
第二 類型	第三 類型	第四 類型	第五 類型	200 万 未 満	200 ～ 300 万 未 満	300 ～ 400 万 未 満	400 ～ 500 万 未 満	500 万 以 上	農 漁 業	技 能 ・ 作 業 職	サ ー ビ ス 業	事 務	小 企 業 主	専 門 管 理	そ の 他
194	110	845	72	296	307	269	153	134	385	278	56	204	147	172	21
57.7	59.1	53.6	43.1	48.3	52.1	59.1	63.4	59.0	48.3	46.4	62.5	61.8	55.1	61.6	42.9
42.3	40.9	46.4	56.9	51.7	47.9	40.9	36.6	41.0	51.7	53.6	37.5	38.2	44.9	38.4	57.1
194	112	847	72	299	309	270	154	135	388	277	56	206	147	174	20
74.2	67.0	65.1	68.0	60.9	70.2	73.7	79.3	71.9	54.7	64.6	83.9	80.1	75.5	77.6	55.0
22.7	30.4	30.1	29.2	34.4	25.9	23.3	17.5	25.9	39.4	31.4	12.5	18.4	21.1	19.0	35.0
3.1	2.7	4.8	2.8	4.7	3.9	3.0	3.2	2.2	5.9	4.0	3.6	1.5	3.4	3.4	10.0
191	111	841	73	299	307	270	151	134	384	280	57	202	146	171	21
41.9	42.3	28.5	31.5	22.7	30.0	39.6	47.7	46.3	19.0	27.9	45.6	47.5	34.9	54.3	9.5
16.2	15.3	19.6	15.1	22.1	19.9	13.3	10.6	14.9	24.2	18.6	21.1	9.9	15.8	9.4	38.1
41.9	42.3	51.9	53.4	55.2	50.1	47.1	41.7	38.8	56.8	53.5	33.3	42.6	49.3	36.3	52.4
182	108	793	70	270	289	261	146	129	353	268	55	197	139	171	17
86.3	82.4	77.8	62.9	72.2	80.3	85.4	85.6	86.8	66.3	76.1	94.5	87.3	84.2	90.1	64.7
13.7	17.6	22.2	37.1	27.8	19.7	14.6	14.4	13.2	33.7	23.9	5.5	12.7	15.8	9.9	35.3
188	113	842	72	294	301	261	150	134	371	280	54	199	146	171	18
57.4	46.0	45.9	45.9	36.7	51.8	55.2	63.3	57.4	31.0	40.7	62.9	62.3	57.5	73.1	33.3
28.7	29.2	28.6	33.3	32.3	28.6	24.1	22.7	25.4	37.2	30.7	27.8	23.1	22.6	18.1	22.2
13.8	24.8	25.5	20.8	31.0	19.6	20.7	14.0	17.2	31.8	28.6	9.3	14.6	19.9	8.8	44.5
183	107	781	69	267	276	259	146	127	355	256	52	196	136	168	17
43.7	50.5	48.4	42.0	43.1	48.9	53.3	52.1	48.0	43.4	45.7	51.9	55.1	42.6	56.0	11.8
56.3	49.5	51.6	58.0	56.9	51.1	46.7	47.9	52.0	56.6	54.3	48.1	44.9	57.4	44.0	88.2